



ふじみだい

大切な自分

校長 山本 加奈代

寒さが本格的になってまいりました。日増しに防寒具や手袋を身にまとう児童も増え、健康管理にもより一層気を付けていきたい季節を迎えています。

11月21日（土）に行われた「ふれあいフェスティバル」は、一家庭1名の保護者の参観で、各学年10分程度の合奏という新しい形での開催となりました。保護者の皆様にも、新型コロナウイルス感染拡大防止にもご協力いただき、ありがとうございました。運動会後のこの一か月間は、いつの時間帯も学校中に音楽が響き渡り、休み時間も自主的に練習する姿が各教室等で見られました。子どもたちは音楽の技術を高めるだけでなく、ある時は悩んだり、悔しい思いをしたり、そして、ある時は友達の思いに寄り添ったり、楽しさを味わったりしながら、多くの経験を積んでいました。一人ひとりの大きな成長も小さな成長も、どちらも尊い大切な成長です。できた喜び、安心して自分を表現できたことが、次につながる自信となってほしいと願っております。

今年度は、コロナ禍ゆえに、人と人とのつながりをどうしたら実現できるのかと実行委員の児童が中心となって考えてきました。児童、保護者、地域の方々の感想を「つながりボード」に貼り合わせるなど、工夫を凝らしていました。体育館のステージに掲示されたボードが教室の画面に映し出されると、「わあ。」という歓声が沸き起こり、テーマである「レインボー スマイル ロード」の達成を、全児童で喜ぶことができました。

さて、本校では、人とのつながりから学び、自分も他人も大切にできる子どもの育成に向けて「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校をめざして取り組んでいます。日々の学校教育の中で子どもの人権が尊重された教育活動を行っていますが、今年度も「人権デー（12月10日）」までの1週間（12月4日～10日）を人権週間として、学年ごとにテーマを決めて取り組みます。人権感覚や人権意識を見つめてふり返り、気づき、そして変わる機会にしたいです。日々の生活、運動会やふれあいフェスティバル等の学校行事での姿、友達とのかかわりなどを通して、「私は大切な存在なのだ」という自尊感情を高めていくことが大事です。そのように感じることで、周りの友達についても自分と同じように大切な存在と考えることができるようになります。とは言うものの、自分のことをすばらしいと肯定的に考えるのはやや苦手な人もいます。誰しものが必ずもっている優れたものについて、自分では気づきにくい場合もあるので、この機会にお互いのよさを伝え合い、褒め合ってみてはどうでしょうか。「〇〇さん、すごいね。」「すてきだね。」と認められる経験をたくさん重ねてほしいです。

コロナ禍でどうしても気持ちが沈みがちですが、一人ひとりの存在の大切さを確かめ、しっかりと育んでいきたいと思えます。

